第２章

運営のヒント

«登場人物»

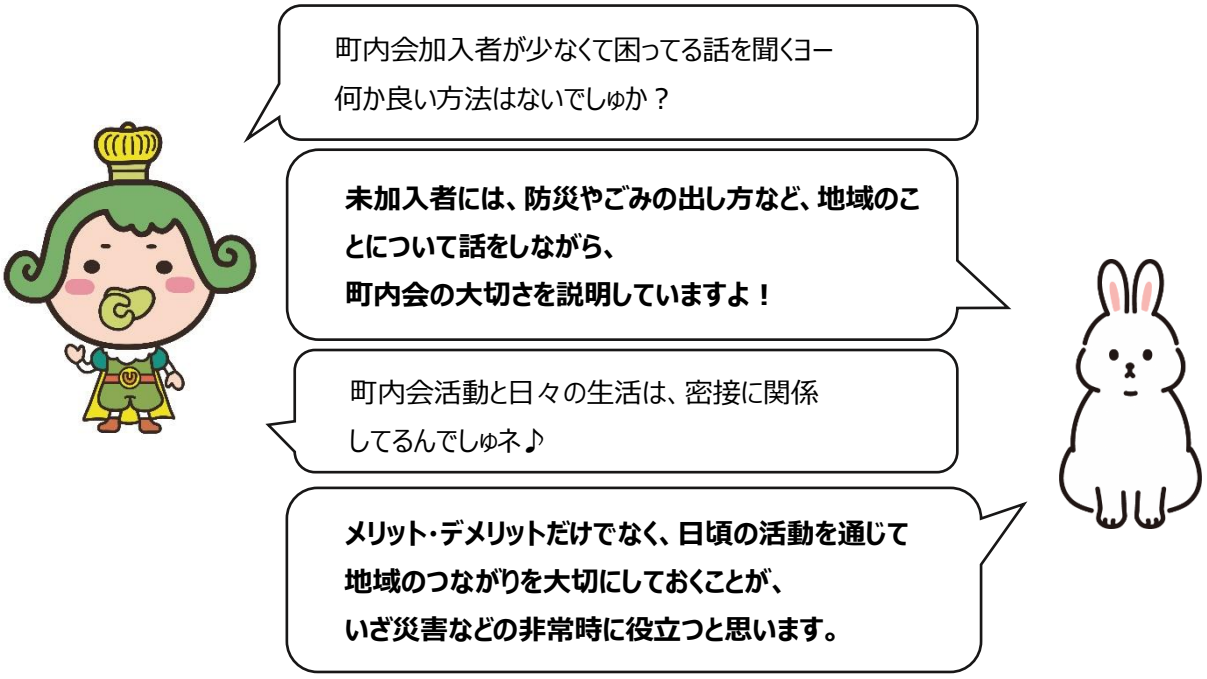
おうじちゃま

王宮を抜け出して、まちへ遊びにやってきたおうじちゃま。
まちには“町内会”と呼ばれる団体があり、
そこで地域の活動が行われているみたい。
あれれ？ちょうどおうじちゃまの前に、
ベテラン町内会長・ウサギ先輩が…
おうじちゃま
「早速町内会活動について、インタビューしチャお～！☆彡」

ウサギ先輩（町内会長１０年目）

ベテラン町内会長。
自分の町内会だけでなく、他の町内会との交流も
大切にしており、様々な事例をたくさん知っています。
おやっ、わくわくしながらこちらを見つめるおうじちゃまを発見。
ウサギ先輩の経験が、おうじちゃまの疑問解決の
手助けとなるのでしょうか。

① 町内会・自治会の加入者が減っています



■町内会・自治会活動の大切さを伝える

加入促進策は役員以外も含め、日頃のつながりを通じて呼びかけをしていく必要があります。

ごみ出しについてなど、身近なことから町内会・自治会活動の大切さに気付く方も多いのではないでしょうか。

■町内会・自治会が地域の重点課題に取り組む

防災や防犯など、地域の方の関心が高い課題へ取り組むことが、加入促進にもつながると考えられます。

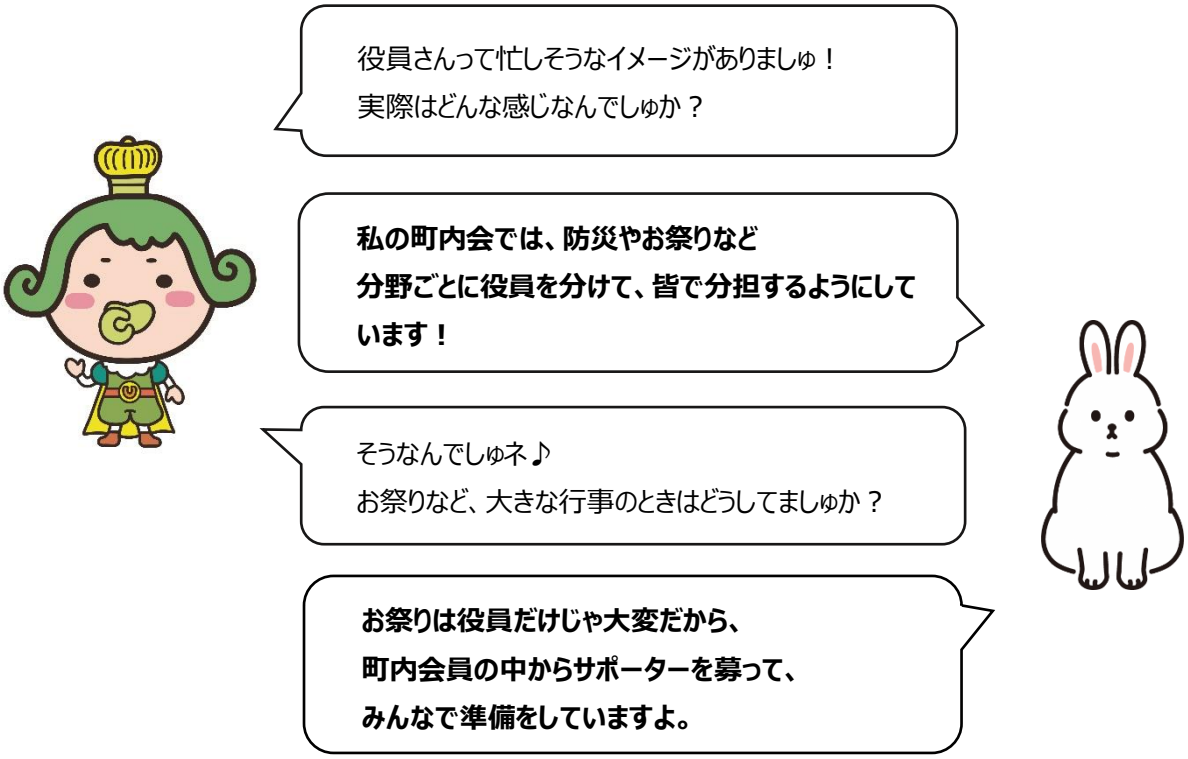
例えば、防災訓練などの取り組みでは、町内会・自治会未加入者へも声を掛けて地域全体で取り組むことで、加入促進につながった実例があります。

■「ふるさとづくり」としての取り組み

地域で育つ子どもたちにとっては、将来それぞれの地域がふるさとになります。より良い地域づくりは、子どもたちにとっては大切な「ふるさとづくり」と言えるのではないでしょうか。

特に子育て世代の会員には、町内会・自治会の「ふるさとづくり」の取り組みを理解してもらうことが、活動の重要性を訴えることにつながります。

② 役員の仕事が多くて負担になっています

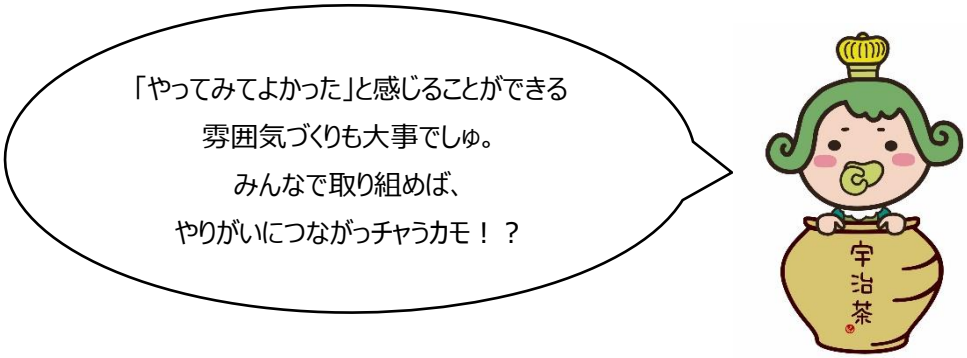


■複数の役員で活動内容ごとに分担する

会長に負担が掛かりすぎないように、副会長と仕事を分担したり、町内会・自治会の規模によっては防災や福祉など専門の役員を配置することで、個々の負担を軽減することができます。（役員の種類について…Ｐ６）

■サポーターをつくる

大きな行事の準備を役員だけでするのは大変です。事前に周知しておき、行事の準備を手伝ってもらえるサポーターを募集してみるのも１つの方法です。また、役員経験者には顧問や相談役として町内会・自治会活動をサポートしてもらうのも良いでしょう。



③ 役員の担い手不足で困っています

若い人が減って、少子高齢化が進んでる町内会の話もよく聞きましゅ！
役員の担い手が少なくなってきてるみたいダヨー

私の町内会は、規約で７０歳以上は役員を免除できるようにしています！
本人からの申告制にして、まだまだ現役でがんばりたい方の力をお借りしています。

年齢に関係なく元気な方もたっくさんいましゅネ！
助け合っていけば、町内会に活気が出そうでしゅ☆

「できる人ができることをやる」という姿勢が大切だと思いましゅ♪
いろんな参加の形があるってわかったヨー☆

■役員の選出方法を見直す

町内会・自治会によっては一定年齢以上の方を役員から免除している所も少なくありませんが、定年制と本人からの申告制を併用することで、高齢者であっても元気な方の協力が得られ、町内会・自治会の活性化、役員のなり手不足解消につながるのではないでしょうか。（選出方法について・・・Ｐ６）

■組を再編する

組を合併するなどして再編することで、役員選出の負担を軽減している事例もあります。また再編が難しい場合、組をまたいでの立候補を可能とすることで役員選出を円滑に進めている町内会・自治会もあります。

■将来の役員候補を育てる

町内会・自治会の仕事は「できる人ができることをやる」という姿勢が大切です。
ある町内会・自治会では、副会長を若い世代から選出し、幅広い世代が町内会・自治会運営に参画することで、次世代の育成に努められています。
また、近い将来の役員候補として、１～２年後に退職を迎えられる会員に、あらかじめ退職後の協力を依頼する町内会・自治会もあります。

④ 会員の活動への参加状況があまり良くありません

町内会活動の参加者が減っチャったときは、どうしたらいいでしゅか？

原因は様々だと思うけど、活動のマンネリ化や、
会員にとって関心の少ない行事を続けていませんか？

会員の目線に立つことって大事だと思いましゅ☆
みんなに喜んでもらえる活動ができたらうれしいでしゅネ♪

■活動のマンネリ化を解消する

町内会・自治会での活動は様々ですが、地域の状況や世代の変化にあわせて行事を見直すことで、マンネリ化を解消し、参加者が増えた事例があります。

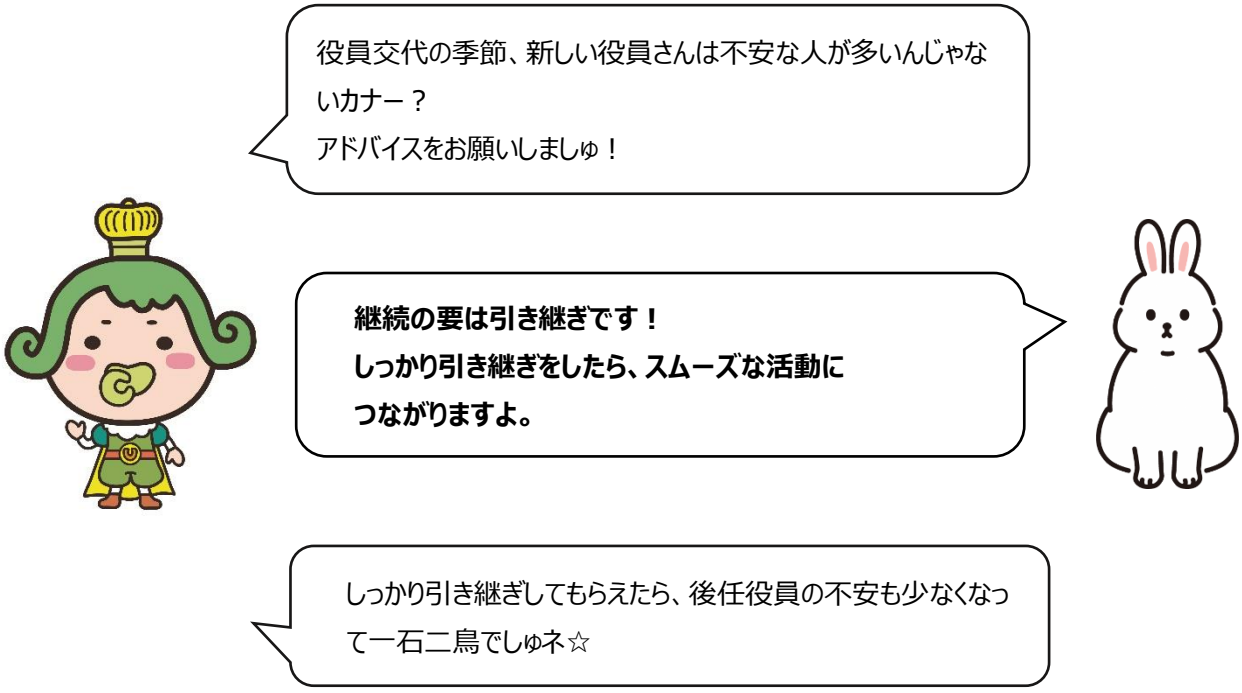
例えば、夏祭りは子供が少なくなったので、大人の方が参加しやすい懇親会をメインに変更した地域や、親子が揃って参加できる行事を行うなどといった取り組みをされている地域があります。

■アンケートを実施し会員のニーズを把握する

会員の関心ごとは町内会・自治会により様々です。アンケートを実施し、会員のニーズを把握することで、どのような活動が喜ばれるのかを知るヒントになるのではないでしょうか。

レクリエーションの日帰り旅行企画を業者に依頼して、新しい案を出してもらってる地域もあるみたいでしゅ☆

⑤ 活動の継続性が課題になっています



■しっかり引き継ぎを行う

日々の活動記録等を残しておき、課題を含めて引き継ぎすることで、活動の継続性を保ちましょう。（引き継ぎについて･･･Ｐ１０）

■新旧役員が一緒に取り組む期間を設ける

・新役員が早めに活動に参加する

活動の継続性を図るため、新役員を早めに選出し、交代の数か月前から活動に参加してもらうことで、スムーズに引き継ぎを行っている町内会・自治会もあります。

・役員を半数ずつ改選する

役員任期を２年間に設定し、１年ごとに半数ずつ改選を行っている町内会・自治会もあります。

■長期的な課題の担当役員は任期を長くする

継続的に取り組む必要がある分野については、担当役員の任期を長くすることで、じっくりと課題に取り組んでいる町内会・自治会もあります。

また、専門部長というような特定の分野を統括する役員を設けている町内会・自治会もあります。

コラム②　地域の活性化に向けて　～地域運営組織とその法人化～

地域で発生している課題や今後の不安に対して、地域運営組織を中心に地域住民で話し合い、必要な取り組みを展開し、まちづくりに取り組まれている事例があります。

①　地域運営組織とは

地域の生活や暮らしを守るため、地域で暮らす人々が中心となって形成され、地域課題に向けた取組を持続的に実践する組織のことです。

組織形態として、町内会・自治会を含めた任意団体を基盤としている組織が多く、高齢者交流サービスや、声かけ・見守りサービスを事業として取り組まれている組織が多くなっています。

②　地域運営組織の法人化

地域運営組織が展開する活動や担い手は地域ごとに多種多様であり、様々な法人制度を活用し、組織の安定運営や継続的な活動に努められています。

「組織の性格」や「取り組みたい事業」を中心に、どのような法人格を選択するか検討してみてはいかがでしょうか。

＜法人組織の例＞

〇認可地縁団体

地域的な共同生活を円滑に行うために、市区町村長の認可を受け、法人格を取得した地縁による団体です。

〇NPO 法人・認定 NPO 法人

社会貢献活動を主な目的としている法人です。

〇一般社団法人

事業内容に制限がなく、設立までの手続きが容易な法人です。

〇株式会社

利益を得ることを目的とし、「稼ぐ組織」として発展させやすい法人です。

〇合同会社

出資額の大小によらず、全員が平等な立場で経営する法人です。

詳しくは、内閣府総合サイト「地方創生」を見てみてネ～♪